

令和 4 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690900046
法人名	ユニバーサル株式会社
事業所名	福祉コミュニティ小矢部あいの風
所在地	富山県小矢部市茄子島 2 2 6 番
自己評価作成日	令和5年1月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>利用者様1人1人が笑顔で過ごせるよう、家庭的な雰囲気と居心地よい環境を提供できるよう心掛けています。それぞれの方の気持ちに寄り添ったケアにつながるよう職員間での情報共有を大切にし、利用者様にとってのより良い生活を支援できるよう努めております。</p>
--

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページ等で閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1丁目1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	令和5年2月14日	評価結果市町村受理日	令和5年3月7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所の理念「一人ひとりにとって最高のパートナー」や、今年度の目標「ていねいに」が職員に浸透しており、コロナ禍においても、手作りの食事や外出機会の確保、季節の行事等、利用者を楽しみを感じてもらえる取り組みが実践されている。また、面会を制限している状況でも、利用者の様子については、様々な手法で連絡対応等が行われており、家族の満足度にも繋がっている。計画的な研修会の他、事業所の状況等に応じて職員が講師となって主体的に研修を実施するなど、人材育成に取り組んでいる。また、地域の介護施設や行政とも情報交換や相談できる関係が構築されており、利用者の支援だけでなく、悩みを抱える地域住民の相談対応や、地域の清掃活動等にも尽力している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	小矢部あいの風の理念を各フロア、事務室に掲示し共有している。	「一人ひとりにとって最高のパートナー」の理念に加え、今年度は「ていねいに」という事業所目標を掲げ、毎月のミーティングで共有している。また、接遇強化月間を設けたり、コロナ禍以降控えていた外出の機会をつくったりする等して理念や目標の実践が図られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍でも地域行事として清掃活動や・除雪作業を通じ地域との交流を図っている。	自治会に加入し、地域の合同行事(清掃、草刈り、除雪等)に参加している。また、事業所は「認知症相談窓口」を有し、地域住民から介護相談を受けるなどの活動をしている。コロナ禍以前は、公民館、地域中学・小学校行事への参加やボランティアとの交流が行われていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症相談窓口となっており、相談や見学にも応じている。今年度はコロナの為、電話等にて対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度もコロナ禍の為開催できていないが、健康福祉課・家族様・自治会長には活動報告書を2カ月に1回提出している。	2カ月に一度、書面で運営状況、活動報告、研修報告、事故報告等について全家族と推進会議委員に報告している。家族からの面会の要望に対して感染症対策を講じて面会できるようにする等、意見が反映されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市からの入居相談を受けたり、事業所内での問題のアドバイスを受けるなど、いつでも相談できる関係性を築いている。	離設、施設、入居相談等について、市の担当者との連絡を取り合い、助言を受けている。また、行政主催の感染症防止対策会議やグループホーム連絡調整会議等への参加を通して、事業所の課題等に関して相談する機会をつくっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを使用し「身体拘束をしないケア」について確認し、運営推進会議にて、身体拘束をしないケアを実施していることを報告している。また、ミーティングにて職員同士で身体拘束・虐待がなぜいけないのかを学びあった。	身体拘束をしないケアについてのマニュアルを整備している。委員会は、毎月ミーティング時に開催し、日常的に拘束事例のないことを確認し記録に残している。身体拘束をしないケアについて正しく理解できるよう、職員が順番に講師となって研修会を実施し、一人ひとりを大切にケアの実践につなげている。	事業所(法人)として、身体拘束等適正化のための基本となる、考え方、体制等をより明確にするなど、より具体的な「指針」の整備に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の方への声掛けや対応が精神的、肉体的虐待につながらないように、ミーティングや研修を通じ、注意喚起している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングや研修などで学び活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際に説明をしており、不安や疑問点がないか聴いている。理解された上で署名、捺印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、苦情や意見を訴えやすいようにしている。また家族の方の面会時にはコミュニケーションを図り、意見や要望を伺い解決できるよう努めている。	面会制限の中、受診同行時や電話、ショートメールでの近況報告、オンライン面会、手紙・葉書等、多様な機会をつくり家族の意見を聞いている。内容は職員間で共有し、コロナ禍における面会の希望等について、状況を勘案し迅速に実現させる等、意見の反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時に、現状の改善点や提案等を意見を聞き話し合う機会を作っており、代表者へ報告し、反映している。	ホーム長は、毎月のミーティングや、年2回、人事考課の個別面談の場で職員から意見や要望を聞いている。管理者は日常的に職員の意見を確認している。利用者のための介護予防器具の購入や、家具の新調、雇用体系を見直す等、意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に人事考査を行い、職員の実績や勤務状況の把握に努めている。また向上心を持って働けるように条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催の初任者研修や実践者研修への受講を促し、スキルアップできるように勤めている。市や外部研修も能力に合わせ勤めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年1回、同種の事業者が集まる連絡調整会に参加し、情報交換を行っている。入居申し込みの相談やコロナ対応等も同業者と連携を図り情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前には必ず本人に会い、心身の状態の確認や意見要望を聴いている。また利用開始後は本人や家族様に生活する上で不安や困りごとがないか聴き、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族の要望や状況、これまでの経緯を聴き、どのように支援ができるか提案を示し、関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族と話し合い、要望、困りごとの把握に努めている。適切と感じれば他のサービスの利用の検討も説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の出来ることを見つけ、共に楽しみながら行えるように支援している。好きな事得意な事を把握し張り合いをもって過ごしていただけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連絡時や面会に来られた際に、本人の近況をお伝えし、共に利用者様を支えていけるよう努めている。緊急時には速やかに連絡をとり、関係性を築いている。コロナ禍の為、現在家への外出・外泊は控えさせていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の面会制限中は会うことができないので、電話や手紙にてやり取りし関係性が途切れないようにしている。	コロナ禍以降、家族との面会は感染対策を講じて行っているが、流行状況により制限する期間もあり面会頻度は減っている。そのため、電話、手紙・葉書、SNSなどを使い、家族との交流を図っている。また、年4回ホーム便りの発行や、日々の写真は個々のアルバムに保存し、機会を見つけて家族に見てもらうなど、関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方向士の会話や交流を促し、支援している。トラブルになりそうな際には職員が間に入り、気分転換を図りながら関係性が悪くならないよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様が退所されても、移動先に必要とする情報の提供を行い、円滑な支援がなされるよう連携を図っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の支援を通し、利用者様・家族より聞き取った情報を、ミーティングにて個別ケアについて話し合い本人の思いや意向に添えるよう話し合っている。	日々把握した利用者一人ひとりの思いや意向は、申し送り、毎月のミーティング等で話し合い共有している。思いの実現に向けて、本人、家族の意見が介護計画に反映できるように、担当者会議等で検討している。衣類の素材等により不快を表す利用者には対応の工夫を行うなど支援に反映された事例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に本人と家族にこれまでの生活歴や暮らし方、生活環境を聴き、情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察や記録で、個々の心身の状態や生活の様子を把握するように努めている。またミーティング等で、有する能力などの現状の把握、情報交換を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見を伺い、モニタリングに反映させている。月1回のミーティングや申し送りにて状態変化等の確認を行い、職員間で各利用者様の課題や適切なケア等について話し合い、ケアプランに反映できるようにしている。	毎月のミーティングで、個々の利用者の現況について話し合い、担当職員が行うモニタリングをもとに、半年ごとに介護計画を見直し担当者会議を実施している。担当者会議にはかかりつけ医にも参加してもらう機会がある。家族の意見は事前に聞き取り、介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を記入し、職員間で現状把握、気づき等の情報共有をしながら、ケアの実践やケアプランのの見直しに反映をさせている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化に応じて、本人家族と話し合い、地域の介護事業所、医療機関等との連携を図り、現状に応じた支援が行えるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の学校の就業体験の受け入れや、定期的に学校への雑巾の寄贈を行っており、施設外の人との交流がはかれるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院はあるが、主治医の選択は入所後も自由に行っている。事業所勤務の看護師が中心となり、主治医との連絡調整に努めている。	入居時に、これまでのかかりつけ医を継続するか、事業所の協力医に変更するか確認している。協力医への受診は職員が付き添い、個々のかかりつけ医への受診は基本家族対応としている。事業所からの連絡事項を受診先に提出するなど、適切な受診支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づいた事をお互い意見交換し、情報を共有している。また申し送りや介護記録に記入し、全職員が把握できるよう努めている。日々各利用者様の状態観察を行い、適切な医療、看護が受けられるよう支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護、介護サマリーを通じて医療機関への情報提供を行い、適宜、地域連携室と連絡をとって状況の確認を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応に関して、契約の際に家族へ説明・同意を得ている。	利用契約時に、基本的には看取りは行わないこと、また、経口摂取ができる、医療処置等が伴わない限りは重度化には対応する方針としていることを説明し、同意を得ている。医療処置等が必要な状態になった際には、かかりつけ医とも相談し、対応可能な医療機関や入所施設を紹介する等を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを整備し、緊急時の対応がスムーズに行えるようミーティング等で話している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、利用者様を交えて火災時の避難訓練(日中、夜間想定共)を行っており、事前に地域の方にもお知らせしている。	年2回(日中・夜間)の火災訓練を実施し、訓練時には自治会長、近隣住民の参加がある。訓練時の利用者や職員の様子、避難の実際は運営推進会議で報告している。水害時の避難場所について市に相談したり、地震に備え家具が倒れないよう固定したりしている。また、水、パン等を備蓄している。	火災訓練の他、地震や水害等の災害時対策について、事業所(法人)内はもとより、地域、行政、消防等と協力し、避難場所の再検討を含め、より実効性のある取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングにて、プライバシーの尊重やコミュニケーション技術について話し合いを行っている。また日々のケアの中でも対応に気をつけるよう注意喚起をしている。	「一人ひとりにとって最高のパートナー」を理念とする事業所は、利用者への言葉かけや声量、ケアの仕方などを日常的に振り返る機会がある。また今年度は権利擁護や接遇、認知症研修の中で、プライバシー確保について学び、理念に基づいた実践につなげるよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常において、会話の機会を持ち、訴えを傾聴し、本人の思いを引き出すようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの方のペースを尊重し、本人にとって無理なく過ごしやすい生活の支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容に来ていただいている。着替えの際は、出来るだけ自分で着たい服を選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食時、盛り付けや片付けなどを一緒に行っている。厨房からの食事の他にも時々手作りしたり、近くのお店でテイクアウトしたりして楽しめるよう支援している。	厨房から食事が運ばれ、利用者は職員と一緒に盛り付けや下膳をしている。毎月、希望の献立を手作りする日があり、最近はこちらし寿司や天ぷらを楽しんだ。また、寿司等のテイクアウト、おやつの手作り、コーヒーなど、利用者の楽しみに添った食事となるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士がいる厨房で調理した食事を提供し、食事量、水分摂取量を毎回記録している。必要に応じ補助食、補助飲料等提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔状態に合わせた歯磨き、口腔ケアを実施している。必要に応じ、介助も行い口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はもちろん、夜間もトイレ介助、トイレ誘導を行っている。排泄チェック表を使用し個々の排泄パターンに応じ、排泄の自立支援を行っている。	排泄チェック表で一人ひとりの排泄習慣を把握し、間隔を見ながらプライバシーに配慮した声かけや誘導を行い、失敗を減らす支援に努めている。また、ポータブルトイレの使用法、夜間の安眠確保等について話し合い、状態に合わせた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を記録、把握している。摂取量が少ない方にもこまめに少量ずつの水分摂取を促している。水分ゼリーやオリゴ糖の提供を行い個々に対策をとっている。体操、散歩などの運動を促し、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低週2回を目安に入浴していただいている。希望に応じて、入浴回数を増やしている。職員本位にならず、個々の身体状況や希望に応じて1対1でゆとりを持って午前中だけではなく午後でも入浴が出来るよう支援している。	月～土の午前を入浴時間としているが、本人の希望、体調等により、時間や曜日変更には柔軟に対応し、いつでも入浴できる体制をつくっている。また、利用者の身体状況に合わせてチェア浴や福祉用具を活用して入浴の支援を行っている。毎回入浴剤を入れ、香りや色を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースや体調に応じ、好きな時に居室で休息していただいている。夜間の安眠につながるよう、日中の活動を促し支援している。快適に過ごせるよう居室の温度設定などに気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬剤の情報をカルテで確認し、効能、副作用等について理解している。名前、日付け等を読み上げてから服薬いただき、間違いのないように注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人、家族より生活歴や趣味等を伺い、好まれるレクや活動を通じ、張り合いや楽しみを感じていただいている。個々の好まれる飲み物や嗜好品を適宜提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	少人数に分けて、桜や紅葉の季節にドライブに出かけ気分転換できるよう支援している。	桜、紅葉、海、コスモス、稲葉山等々にドライブに出かけ、車窓から季節の移り変わりを楽しみ気分転換を行った。希望に応じて自宅の様子を見に行くこともあった。天気の良い日には、敷地内の散歩や日光浴をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いをお預かりしており、日用品や本人の希望される物、理髪代等に使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族からの申し出や特別な事情がない限り、制限せず手紙や電話のやりとりをさせていただいている。オンラインでの面会も受け付けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングのテーブルは利用者様同士の関係性や状態等考慮し、配置を決めている。季節に応じた掲示物や利用者様が作った作品を掲示している。	快適な空間となるよう、汚れた時にはすぐに清掃するようにしている。また、できる利用者には手すり拭きやモップ掛けを行ってもらっている。匂い等にも留意し随時換気をしている。リビングでは、利用者が塗り絵、パズル、ちぎり絵などを楽しみながら、それぞれのテーブルで談笑する姿がある。壁面には、行事の写真や利用者の手作り作品が掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士の交流ができるよう、席の配置など配慮している。また自由に居室や自席以外の場所でも過ごしていただいている。気分転換に他のフロアに遊びに行ってもらえることも支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	収納や家具、お気に入りの物を自由に持ち込んでいただき、居心地良く過ごしていただけるよう利用者様の動きに合わせて居心地良く過ごせるように対応している。	利用者の意向や動線等に応じて、家族の写真や作品、自宅から持参した家具などが配置されている。また、温度、湿度が管理され、清潔に整えられている。季節の変わり目には衣替えの支援を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで居室内、フロアに手すりを設置し、見守りのもと安全かつできるだけ自立した生活が送れるように支援している。		

2 目標達成計画

事業所名 福祉コミュニティ小矢部あいの風

作成日: 令和 5年 3月 6日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	事業所としての身体拘束等適正化のための基本的な考え方、体制等をより明確にし、今後の方針に取り組んでいく。	事業所としての、身体拘束等適正化のための基本的な考え方を再度周知徹底していく。	事業所としての「指針」を整備し、その指針の周知を図り考え方を職員全員で理解していく。	6ヶ月
2	13	火災訓練の他、地震・水害等の災害時対策についても地域、行政、消防等と協力し取り組んでいく。	地震・水害等の災害時対策も地域、行政、消防等と連携を図りながら、より実効性のある取り組みを行う。	地震・水害想定での訓練の実施を行い、地域との連携と協力を図りながら、より実効性のある取り組みを行っていく。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。